

West Asia

古代文明の 生成過程

西アジアとアンデスの比較

旧大陸における古代文明の発祥地として知られる西アジア、そこでは豊かな自然環境のもと、農耕や牧畜が成立し、都市も早くから登場しました。そしてその地における考古学的研究は、狩猟採集から農耕定住、余剰生産物の蓄積、そして巨大なモニュメントの建設へと、私たちが通常抱くような古代文明観を作り上げることに貢献してきました。一方で、南米アンデス文明における近年の研究からは、西アジアとは異なる文明形成過程が報告されています。今回のフォーラムでは、両地域で長らく研究に携わってきた考古学者を招いて、最新の調査成果を報告してもらおうとともに、従来の古代文明観が揺るぎないものかどうかを再検討し、両古代文明の特性について討論していきたいと思えます。

2014年1月26日(日) 13:00-16:00 [開場12:30]

JPタワーホール&カンファレンス ホール1

東京都千代田区丸の内2丁目7番2号 JPタワー4階

定員 / 170名 (先着順 申し込み不要)

参加費 / 無料

Andes



国立民族学博物館
National Museum of Ethnology

主催 / 国立民族学博物館・科学研究費補助金基盤研究 (S)
「権力の生成と変容から見たアンデス文明史の再構築」(代表: 関雄二)
協力 / 古代アメリカ学会

古代文明の生成過程

西アジアとアンデスの比較



Program

- 13:00 あいさつ
- 13:05 『西アジア最古の「神殿」
—アナトリア考古学最新事情—』
❖三宅 裕 (筑波大学)
- 13:35 『西アジアにおける文明形成と社会変容
—最近の調査成果を中心に—』
❖下釜和也 (古代オリエント博物館)
- 14:05 『古代アンデスの神殿と世界観
—ワカ・パルティータ遺跡の壁画をめぐって—』
❖芝田幸一郎 (神戸市外国語大学)
- 14:35 『ジャガー人間石彫の発見
—アンデス文明における社会的格差の出現—』
❖関 雄二 (国立民族学博物館)
- 15:05 休憩
- 15:15 ディスカッション

Profile



三宅 裕 みやけ ゆたか
筑波大学教授

イスタンブール大学大学院社会科学部博士課程、Ph.D.。2003年よりトルコ共和国サラット・ジャーミー・ヤヌ遺跡、ハッサンケイフ・ホユック遺跡など新石器時代の遺跡の発掘調査を実施。土器・銅冶金術などのパイロテクノロジー、家畜の乳利用などが主たる研究テーマ。

下釜和也 しもがま かずや
古代オリエント博物館研究員

専門は西アジア考古学。シリアとアゼルバイジャンで東京大学による遺跡調査に参加しながら、西アジアにおける新石器時代から青銅器時代にかけての複雑社会の形成と再編について研究している。共訳書に『バビロニア都市民の生活』(同成社)、『図説人類の歴史 古代の科学と技術』(朝倉書店)がある。



芝田幸一郎 しばた こういちろう
神戸市外国語大学准教授

専門はアンデス考古学。ペルー海岸地方で発掘調査を行い、主に文明形成期の社会組織について研究している。「El sitio de Cerro Blanco de Nepeña dentro de la dinámica interactiva del Periodo Formativo (ペルー・カトリカ大学出版局)」など論文多数あり。

関 雄二 せき ゆうじ
国立民族学博物館教授

専門はアンデス考古学、文化人類学。南米ペルーにおいて神殿の発掘調査を行い、アンデス文明の成立と解明に取り組んでいる。主な編著書に『アンデスの考古学』(同成社)、『古代アンデス 権力の考古学』(京都大学学術出版会)、『古代アンデス 神殿から始まる文明』(朝日選書)などがある。



- JR東京駅 徒歩約1分
- 丸の内線東京駅地下道より直結
- 千代田線二重橋前駅 徒歩約2分
- 三田線大手町駅 徒歩約4分
- JR京葉線東京駅 徒歩約3分
- 有楽町線有楽町駅 徒歩約6分
- JR有楽町駅 徒歩約6分



国立民族学博物館
National Museum of Ethnology

問い合わせ先

〒565-8511 大阪府吹田市千里万博公園10-1 国立民族学博物館 関研究室
TEL: 06-6878-8252 FAX: 06-6878-7503
E-mail: sekiken@idc.minpaku.ac.jp